海外安全対策情報（令和2年7月～9月）

1 社会・治安情勢

ベラルーシの治安は、おおむね良好ではあるものの、過去には爆発事件やショッピングモールでの通り魔事件も発生しています。また8月に実施された大統領選挙以降、連日各地で抗議活動が行われています。抗議活動参加者と治安部隊の衝突により、多数の集会参加者等が拘束され、死傷者も発生しました。ベラルーシに滞在中の方は、常に報道等により最新情報の入手に努めるとともに、抗議活動が行われている場所（街の中心部や大通り沿い、広場、地下鉄駅周辺など）や群衆が集まる場所には近づかない、特に抗議活動が活発化する時間帯の外出は控える、外出時は旅券等身分証明書を所持するなど、十分注意してください。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）ベラルーシ共和国内務省が発表した犯罪統計によれば、2020年1月1日から9月30日までのベラルーシにおける犯罪総数は64,010件で、前年同期と比較し4.0%減少しています。主な犯罪の内訳は以下のとおりです。

ア 窃盗20,447件（前年比11.5%減）

（うち住宅対象侵入窃盗）5,909件（同1.8%減）

イ 公然窃盗967件（同12.0%減）

ウ 恐喝288件（同77.8%増）

エ 詐欺2,995件（同9.2%減）

オ 暴力犯罪2,865件（同22.6%減）

カ 殺人及び殺人未遂232件（同0.4%増）

キ 重傷傷害590件（同6.5%増）

ク 強盗70件（同27.8%減）

ケ 強姦及び強姦未遂54件（同38.6%減）

（2）邦人被害事案は報告されていません。

（3）2020年7月～9月における主な被害事案は以下のとおりです（当地の報道から作成）。

ア 7月1日、ミンスク市タラソヴォ村で、停めていた車から7000ルーブルが盗まれる事件があったと内務省が伝えた。6月25日夜、女性が車を自宅そばに駐車した際、車を施錠しなかった。自宅の敷地内に設置された監視カメラから、夜間に男が塀を越えて侵入し、車のドアを開けている様子が確認できた。映像では個人を特定できなかったが、その特徴

から、昨秋に同様の罪で逮捕された 34 歳の男が容疑者として浮上した。男は、2 日前にも別の車から現金を盗んだと認めた。内務省によると、ベラルーシ国内の本年 5 月までの車からの盗難は 782 件発生しており、昨年同時期は 768 件だった。内務省は、車に金銭や貴重品を残さないこと、常に車を施錠し、警報装置を使用することを推奨している。

イ 7 月 2 日夜、バブルイスクで、警備隊が歩道を走行する車を見つけた。何度も停止するよう求めたが、運転していた男は逃げようとした。車の速度は時速 120km で、他者に危害を加えるおそれがあったため、車を停止させようと警官が車で道路を封鎖したが、男は停止せずに正面衝突した。事故での犠牲者はいなかった。男は 39 歳で酒に酔っており、無免許だった。男は道路交通関連法違反として行政罰となった。

ウ 8 月 19 日、ミンスク市の賭博店に強盗が入ったと内務省の報道官が明らかにした。数日前、ウルチエ駅地下通路にある賭博店で、男がピストルのような物でレジ係の従業員を脅迫し、レジにあるお金を渡すよう要求した。従業員が約 1500 ベラルーシルーブルを渡すと、男は姿を消した。8 月 19 日、捜査員は容疑者を拘束した。この男は、前科のない 56 歳のミンスク市民だと判明した。男は、困難な金銭状況が動機であると供述した。

エ 8 月 26 日、大量の向精神薬を所持する 21 歳のゴメリ市の大学生の男が、同市ダヴィドフスキー墓地の近くで拘束された。男は、向精神薬をいくつかの場所に隠し、更に 200g と 50g に個装された禁止物を所持していた。捜査員は、男が住む寮の部屋で、特に危険な向精神性薬物の α -PVP が入った包み 2 個、総重量 290g を見つけ、量り、空のポリ袋、テープ、その他付属品も押収された。男はドラッグマーケットで薬物を購入したことを認め、時々ミンスクでも購入していた。向精神薬の一部は他の卸売業者に割り引き価格で販売し、残りは寮の部屋で量り分けて包装し、隠していた。

オ 9 月 6 日朝、バラノヴィチ市北部の団地の中庭で、7 歳と 8 歳の女兒 2 人が遊んでいたところ、リードと口輪なしで散歩していた中央アジアシェパード犬に襲われた。犬は女兒に襲いかかり、噛んだ。目撃者が通報し、警察官が駆けつけた。警官は敷地を封鎖し、居合わせた人を安全な場所に案内した。攻撃的な犬を無害にするため、武器を使用することが決定された。女兒は、顔、腕、足に怪我を負って病院に運ばれ、治療後、帰宅した。司法機関は、犬の飼い主の身元を確認するとしている。

カ 9 月 6 日深夜 2 時頃、ピンスク市で自転車に乗った 42 歳の男性が、パイプラインの溝に落ちて死亡した。当時、道路ではパイプラインの工事が行われていた。その横を男性が通り過ぎた際、地面の盛り土に乗り上げ、自転車ごとコンクリート製のパイプラインの溝に落ちた。男性はその場で死亡した。調査委員会のピンスク地区間局が、捜査を行ってお

り、自転車にはライトが付いていなかったことがわかっている。

3 テロ・爆弾事件の発生状況

なし。

4 誘拐・脅迫事件の発生状況

なし。

5 日本企業の安全に関する諸問題

なし。

※上述の事案は全体の中の一部の情報です。定期的に報道などを確認し、自身の安全確保に努めてください。